

こちら特報部

識者「調査で訴訟減る可能性」

法的責任追及 医師ら危惧

前出の山本さんも公表に同意した。山本さんは「お医者さんは神様じゃない。人間がやることに間違いはある。だが、真摯な説明も反省の言葉もなく、命を軽く考えているような態度が許せない。母の命が医療が変わる一助になるなら喜んでくれるはず」と語る。

一方の医療界。今年五月七日、大学病院長や医学部長でつくる「全国医学部長病院長会議」が文書を公表した。表題は「医療事故調査制度の現状と課題」。全



医療事故調査制度のスタートに向けて開かれた厚生労働省の検討会=2015年2月、東京都千代田区の主婦会館で

医療界は医療事故の調査に及び腰。こう感じている遺族らが動き始めた。「このままでは病院間で医療安全に対する意識の格差が広がってしまう」。医療事故の当事者らでつくる「医療過誤原告の会」の宮脇正和会長(七〇)は、「んな危機感を持つてはいる。どうにかしたいと三一六年以降、会のホームページ」

国の大大学病院百十七施設を対象にしたアンケート結果をまとめたものだ。そこからにじむのは、制度名にある「事故」という言葉への拒否感と、法的責任追及への恐れだった。約六割に当たる七十施設が制度の名称変更を要求。これを受け、文書では「医療事故調査制度」を「患者安全のための報告・学習型

度」にするよう提案した。
さらに、七割を超える八十
三施設が「報告書の訴訟利
用」を制度の課題に挙げて
いた。調査した部会の坂本
哲也委員長（帝京大病院
長）は「再発防止システム
が結果的に医師の法的責任
を追及するシステムになり、
医療現場が疲弊する事
態は避けたい」と訴える。
この制度はそんな「法的

遺族側憤り報告書公表へ

院療事故の原因を調べ、報告はまとめる「医療事故調査制度」が始まって五年。ところが、報告件数は当初の予測を大幅に下回っている。「訴訟を起す」されるのでは」と、医師らが制度の利用に消極的になつていることが背景にあるようだ。ただ、報告は再発防止への手引きになると、同じ過ちを繰り返してほしくないと考える遺族が、自分たちの受け取った報告書を公表し始めた。事故から学ぶ姿勢は、医療界に根付くか。

六
國
寶

「母の命が軽く扱われて
いるように感じました。本
当にお粗末なものでした」
東京都豊島区の会社員、
山本祥子さん(四〇)は、静岡
県の大型総合病院で、母親
の昌子さんを六十八歳で亡
くした。病院が実施した
「院内調査」の報告書を受
け取った時にこう感じた。
A4サイズたったの二枚し
かなかつたからだ。

抗がん剤治療の後に切除の手術をし、一六年のお正月は家族で過ごす。そんな予定を立てていた。

十月二十日から抗がん剤投与が始まった。嘔吐が続いて食欲はなく、次第に歩行も会話もおぼつかない状態になった。十一月一日には唾液が喉に詰まって一時、心肺停止に陥った。そして十一月五日に亡くなつた。抗がん剤投与を始めて十七日目だった。

起きた時 ます院内で調査して報告をまとめた。その結果に遺族が納得いかなければ、第三者機関「医療事故調査・支援センター」にさらに調査を依頼できるというものだ。

ただ不十分だったとはい
え、院内調査をしただけに
の病院は良心的だったのか
もしれない。院内調査は病
院が自発的にスタートさせ
るという制度だからだ。

ちなみに、制度開始から
昨年末まで、病床数六百床
以上の大病院二百四十一
施設のうち、医療事故の報
告があったのは約六割の百
四十八施設。はたして残る
四割の施設では「予期せぬ
死」は一件もなかったのだ

低調「医療事故調査制度」根付くか

医療事故の原因と問題、取扱い

「母の命が怪しき死」

一九三〇年五月

の年の十月に始まつてい
た。医療法で定められた制
度で、「予期せぬ死亡」が
起きて、未だ院内で調査

かれていた。「遺族にとつては、母の最期を知るかけがえのない大事な資料。血が通つて報告書が切らご内

再発防止へ遺族ら「命に誠実であってほしい」

子どものころ歯を抜いた。変な場所にあったので上あごを切開した。縫合の糸が動脈に引っ掛けついていたようだ。数日後、動脈が切れて大出血しき、救急車のお世話になってしまった。回復後、「いろいろ確認したい」ということで、抜歯した病院へ行つた。今に至るまで、謝罪も説明もない。(裕)

そもそも制度は〇八年に大綱案がまとまっていた。医療行為の結果患者が死んだ場合であっても刑事责任を問われることはないと記す。

東京女子医大で一四年に埼玉県の二歳の男児が鎮静剤プロポフォールの投与後に死亡した事故で、警視庁が今月、医師六人を書類送検した。男児が亡くなる前の〇九一三年の五年間、同様に投与されて亡くなつた子どもは十一人に上る。

男児の母親は「もし制度があつて病院がこれまでのケースを検証していただけたら、助かる命があつたのではと思うてしまう。命に向き合つ医師だから、命に誠実であつてほしい」と訴える。